



どうする！？親知らず



親知らずとは、大臼歯の中で最も後ろに位置する歯であり、智歯とも呼ばれています。生える時期は10代後半から20代前半で、親に知られることなく生えてくる歯であることがその名前の由来だとも言われています。親知らずは不潔になりやすく、歯肉の炎症を起こしやすい状態となります(智歯周囲炎)。

智歯周囲炎が広がると顔が腫れたり、口が開きにくくなったりすることがあります。この場合は、抗菌薬や消炎鎮痛薬の投与で炎症を鎮めた後、様子を見る場合もあります。しかし、親知らずの生える方向が悪いなど、炎症をくり返しているような場合は、抜歯することが適当と考えられます。難症例については大学病院口腔外科を紹介しております。

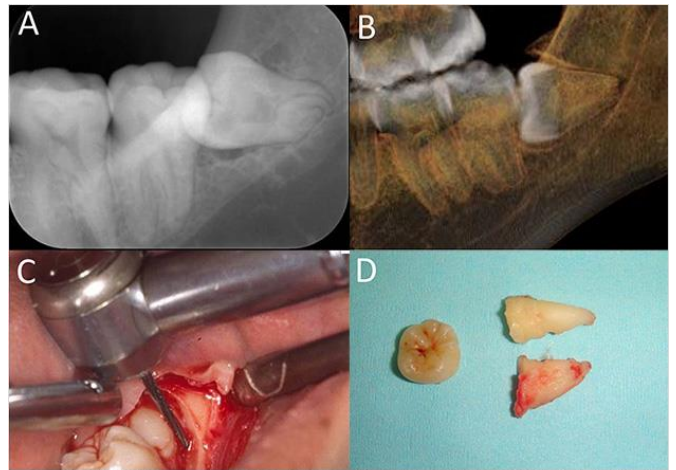


図6 水平埋伏智歯のエックス線写真(A)とCT像(B)および抜歯の様子(C)と分割除去された親知らず(D)

インプラント治療の

メリット・デメリット

インプラント治療は、①手術が必要である、②顎骨の骨量や骨質(硬い、軟らかい)の影響を受ける、③治療期間が長い、④自費診療のため治療費が高額となる、などのデメリットがあります。

しかし、①残っている歯への負担がない、②自分の歯(天然歯)に近い機能や審美性の回復が可能である、などのメリットもあり、生活レベルの向上に伴い、利便性や快適性さらには審美性を求める風潮が広まる中で、それらの要望に応えられる治療と言えます。



図2 歯を失った時の治療法

スタッフブログ更新中★



当院は国際規格 ISO9001 の認証を取得しています。



親子セミナー(保護者向け)
好評開催中♪